

「国際理解教育のへ取り組みに関する調査」ご協力のお願い

拜啓、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

国際理解教育センター（以下 ERIC）では、来年6月に開催を予定しておりますグローバルセミナー1999において「国際理解教育の推進に向けて」をテーマに、学校教育や社会教育で実施できる授業案・活動案の紹介を考えております。

そこでこれまでERICの研修や書籍をご購入の方々を対象に、国際理解教育の現場での実践と国際理解教育の推進体制についてアンケート調査のご協力をお願いすることになりました。

アンケートの内容は次のようなものになっております。

- I 国際理解教育の授業実践について
- II 学級を育てる視点について
- III 国際理解教育の実践のための学校内基盤整備について
- IV 地域、人、情報のネットワーク
- V 国際理解教育全般について
- VI ご自身について

「I 国際理解教育の授業実践について」におきましては、これまでERICの教材、その他ご自身の開発された授業実践についてお聞きするものです。授業案がございましたらそれに代えてくださって結構です。授業実践をこれからされる方は次の項目にお進みください。

国際理解教育の推進のために必要と思われる点につきましては、「II 学級を育てる視点について III 国際理解教育の実践のための学校内基盤整備について IV 地域、人、情報のネットワーク」の3つの視点からお聞きしています。どの質問もすでに実践されておられれば、その項目をチェックしていただくだけの簡単なものになっております。現在の状況と比較のうえご回答くださるようお願いいたします。

最後に「V 国際理解教育全般について」「VI ご自身についての」におきまして、国際理解教育に対するご自身のお考えやご経験をお聞きするものです。

アンケートの結果につきましては報告書にまとめ、ご送付させていただきます。
また、グローバルセミナーにおきましても結果を発表させていただく予定です。

最後になりましたが、国際理解教育の実践者である皆様の実践を、他の実践者の方々と共有するためにもぜひアンケートにご理解とご協力のうえ宜しくお願いいたします。

敬具

ERIC 国際理解教育センター
グローバルセミナー準備委員会
担当 加藤
お問い合わせ先
〒114-0013
東京都北区東田端 1-14-1 岩瀬ビル
TEL 03-3800-9415 (直通)
FAX 03-3800-9410

ご回答下さいましたら調査用紙を同封の返送用封筒に入れ、12月15日までにポストにご投函していただくか、
FAX 03-3800-9410 までお送りください。宜しくご協力お願いいたします。

I 国際理解教育の授業実践について

これまでERIC国際理解教育センター(以下ERIC)の内容や手法を使って国際理解教育の授業実践をされた方にお尋ねします。現在、検討中の方は次の「II 学級を育てる視点について」からお願いします。

1. 国際理解教育の授業について全般的にお尋ねします。

- Q1 ERICの書籍の内容から授業に取り入れたことはありますか いいえ はい
書籍名()
- Q2 ERICの研修での経験を授業に取り入れたことはありますか いいえ はい
- Q3 これまでどの程度、国際理解教育の授業実践をされていますか ()年 ()ヶ月
- Q4 教材から授業へと入れるときに特に改善した点がありますか
改善した点をお書きください

2. 実際に授業を行い、そして「うまくいった」(主観的でけっこうです)授業についてお尋ねします。

- Q5 その国際理解教育の授業は、カリキュラムの中でどのように位置づけていますか
次の1～4の該当するものにチェックしてください
1. 教科の一部 2. 「国際理解教育」の教科として 3. 総合的な学習の一部として
 4. コミュニケーション技術の習得や学級形成のための手段として
 5. その他 自由記述で下記にお答えください
- Q6 その国際理解教育の授業は、授業の枠組みとしてどこでおこないましたか
教科 教科名()
教科外 行ったものに○をつけてください
(特別活動 HR 道徳 学校自由裁量の時間 その他())
- Q7 授業の感想をお書きください
- Q8 授業での子どもの様子はどうでしたか
- Q9 その授業後、改善があるとすればどのようなことですか
- Q10 次に試してみることはどんなことがありますか

Ⅱ 学級を育てる視点について

「よい授業」を成立させるためには学級づくりが基本になりますが、そのためにとられている指導の手だてについてお聞きします。

学級づくりの項目として 1.「自分を大切に思う気持ちを育てる」 2.「学級内でお互いを認めあう雰囲気をつくる」 3. 「コミュニケーション能力を育てる」 4.「協力するための姿勢や技術を育てる」 5.「対立から学ぼう」の5項目を柱に立てました。

すでに実践されていたり、同様のお考えならばチェック欄にチェックしてください。

1. 「自分を大切に思う気持ちを育てる」には次のような工夫があります。

- 子どもひとりひとりと会話以外にコミュニケーションを図る工夫がある
(例えば、連絡帳でのやりとり、学級新聞の発行など)
- 子どもたちが、自分の成長の記録と感じられるような記録のとり方やふりかえりをしている
(例えば、昨年と今年との違いを書く、日記を書くなど)
- 子どもの良いところや上達/成長した点をすぐにその場でほめている
- 本人がいやがる呼ばれ方やあだ名は使わず、子どもたちが自分の呼ばれたい名前呼び合えるようにしている
- 自分の感情をからだで表現するなどによってお互いの感情を受け入れやすくする機会を持っている

2. 「学級内のお互いを認めあう雰囲気を作る」には次のような工夫があります。

- 級友のいいところを積極的に見つけ、認めあう機会をくりかえし作っている
- 子どもたちが、作文や作品を批評し合いよりよくしてゆく機会を作っている
- プレーンストーミングや魔法のマイク(マイクを持っている人のみ発言ができる)など決して否定されずに意見が言える機会をつくっている
- 遅れてきたり欠席していた仲間、新しい仲間ををどう受け入れるかをクラスで考える機会を作っている
- ～しない(禁止や否定)より積極的に何をすることができるかをクラスで考えている
- 「ふりかえりの時間」を授業や行事の後に持つようにし、子どもが評価に参加できるようにしている

3. 「コミュニケーション能力を育てる」には次のような工夫があります。

- 発言や発表のときに輪になって座るなどして、全員の顔がお互いに見える場づくりをしている
- 意見をまとめるときにはまず2人組みで、そしてグループでさらに全体でというように話しやすい単位から活動を始めている
- 活動のねらいによってグループのサイズや組み合わせ、座り方などを変えている
- いいたくないとき、心の用意ができていないときはパスできる
- 考える時間、しゃべる時間、聞く時間をわけてそれぞれに集中できるような指導の工夫をしている

4. 協力するための姿勢と技術を指導するために次のような工夫があります。

- 2人組み等のチームによる「協力学習」の機会をつくっている
- 協力学習の成果はチームとしての達成やチーム内の役割分担、協力の度合によって評価している
- 協力について考えるために「協力ゲーム」などのアクティビティ(活動)を取り入れる

5. 生徒が「対立」を積極的な機会ととらえ、「対立」を解決するための技術を身につけるため次のような工夫があります。

- 対立をさげさせず、人間関係における成長の機会と考え「対立は悪くない」というところから子どもたちに伝えている
- 怒りなどの激しい感情もごく自然なことであり、それをどう受け止めるか、どう扱えばよいかを指導している
- 自分の抱いた感情を、相手に感情そのままに伝えるのではなく、自分がどのような感情を持ったかについて言葉で相手に伝える指導をしている
- 対立の解決のためのスキルを高めるための指導をしている

Ⅲ 国際理解教育の実践のための学校内基盤整備について

これからの学習は、ただ単に教室内における授業ということにとらわれることなく多様化していくことが予想されます。より豊かな学習環境を求めて、適切に学ぶ場づくり、弾力的な教育活動の展開、学校の運営体制を充実することが必要になってきます。

ここでは国際理解教育を実践するために必要な学校での基盤整備についてお聞きします。

すでに実践されている事柄にはチェック欄にチェックしてください。

1. 学校内の場づくりとして次のような工夫があります。

- ① 図書室で調べ学習ができるような資料を低学年向けから高学年向けまで多種多数とりそろえている
- ② 教室などのスペースを活用して、世界とのつながり、環境、開発、人権などのテーマについて実物、チャートに直接その現状が実感できたり手で触ることができるようなデモンストレーションを工夫している
(例えば人口の増加が一目でわかり実感できるような巨大なグラフを壁一面に貼っておくなど)
- ③ 校庭を活動のフィールドとして活用している
- ④ 校庭を多様な生き物の住みかとなるように工夫している
- ⑤ 教師が教材研究ができるような場所がある(例えば国際理解教育を考える場所、「カリキュラム開発室」など)
- ⑥ テーマ学習やプロジェクト学習を行ったときに子どもたちの成果物を展示したり、確保しておくような工夫をしている

2. 弾力的な教育活動の展開について次のような工夫があります。

- ⑦ これまでの教案、教材を活用できるカリキュラム開発室がある
- ⑧ カリキュラム作成のときに一つの事柄を学習するためにある時期に集中して時間を配分することもある
- ⑨ 内容によって教科の時間としてカウントしている
- ⑩ 国際理解教育としてとらえることができる内容を、各教科等の学習内容と検討し連携を図っている
- ⑪ 教科内以外にも学年、全校、教師の特性などを考え、ITを組み合わせ活用している
- ⑫ 実際の学習内容や活動によって、90分でというように柔軟な授業時間にする

3. 学校の運営体制について次のような工夫があります。

- ⑬ 国際理解教育の推進のためのコーディネーターのような役割の人がいる
- ⑭ 教師が集まって国際理解教育について考える時間がある、
- ⑮ 国際理解教育推進委員会(外部の人も含めた)のように組織的に推進している
- ⑯ 図書室、地域のフィールド、空いている教室の利用などの運営に地域のボランティアが支援できる制度がある

4. 今後学校での基盤整備で必要と思われることはなんですか。

上記の文章で重要と思われる上位5つを番号で書いてください。

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位

5. その他学校の基盤整備で必要なことがありましたらぜひお書きください。

IV 地域、人、情報のネットワーク

国際理解教育を含めてこれからの学習環境を支えるためには、家庭、地域や情報の活用が課題と考えられます。それぞれの領域において教育がばらばらに行われてもその教育力はとても弱いものになってしまいます。今後の教育は学校教育だけでなく、地域や家庭、企業を含めた地域社会全体が教育的な機能をフルに発揮させていく必要があります。そのための連携（ネットワーク）の重要性が注目されています。

1. 次にあげているのは学校と家庭・地域を結ぶための工夫です。

すでに実践されているものがあればチェック欄にチェックしてください。

- 地域の自然や風土に視点をおいた学習を計画する
- 地域の伝統に視点をおいた学習を計画する
- 地域の文化や人物に視点をおいた学習を計画する
- 地域の経済と産業に視点をおいた学習を計画する
- 地域の生活習慣に視点をおいた学習を計画する
- 地域と世界とのかかわりに視点をおいた学習を計画する

- 教師自身が地域の状況を調査する
- 子どもの体験や知識を活用する
- 地域の郷土館、博物館、資料館など社会教育施設にある資料を収集する
- 地域や外部の人材をゲスト・スピーカー、リソースパーソンとして活用している
- 学校の校風に合わせ、PTAのみならず地域の人々が交流できる学校での場をつくる

2. 教育に関する専門的な知識をさらに習得するために、どのようなところから情報の収集をされていますか（複数回答可）

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 市町村レベルでの教育協議会・研究会 | <input type="checkbox"/> 教職員組合主催の研究集会 |
| <input type="checkbox"/> 教育委員会主催の現職教員研修会 | <input type="checkbox"/> 民間教育研究団体主催の研究集会 |
| <input type="checkbox"/> 学会 | <input type="checkbox"/> 有志のあつまりやサークル |
| <input type="checkbox"/> 学校図書室 | <input type="checkbox"/> 地域の図書館 |
| <input type="checkbox"/> 新聞 | <input type="checkbox"/> テレビなど |
| <input type="checkbox"/> 教育雑誌（雑誌タイトル：_____） | |
| <input type="checkbox"/> NGO 関係（団体名：_____） | |
| <input type="checkbox"/> インターネット・ホームページ | |
| <input type="checkbox"/> インターネット・メールリスト | |
| <input type="checkbox"/> その他（_____） | |

3. これから ERIC 国際理解教育センターに期待されることをお書きください。